



# 富加町子どもの読書活動推進計画 (第三次)

平成28年～32年



平成28年4月

富加町教育委員会

# 目次

---

第三次 富加町子どもの読書活動推進計画の策定にあたって	3
第1章 第二次計画における取組の成果と課題	
1 富加町第二次計画の目標と計画の重点	4
2 富加町第二次計画における取組	4
3 第二次計画における成果	5
4 第二次計画における課題	7
第2章 富加町第三次計画の基本方針	
1 目標と基本方針	11
2 計画の位置付け	11
3 計画の対象	12
4 計画の期間	12
第3章 具体的な取組 活動の提案	12
読書サポーターズの会の位置付け	15
資料 発達に応じた読書活動推進に向けた働きかけ	17
本が大好きな富加の子(掲示用)	18

## 第三次 富加町子どもの読書活動推進計画の策定にあたって

### 計画策定の背景とねらい

国は平成13年12月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、読書活動推進の基本理念が定められました。

#### <国の基本理念>

「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律154号）」

第二条 子ども（おおむね十八歳以下のものをいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を選び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

県が平成16年3月に「岐阜県子どもの読書活動推進計画」を策定し、それを受け、本町は平成20年に「富加町子どもの読書活動推進計画」を策定しました。それを機に富加町内の図書活動に携わる人たち（読書サークルや学校図書担当者など）が集まり、「読書サポーターズの会」を結成しました。子どもたちの読書活動を支援し、活性化することを目的とし、啓発活動を行ってきました。

平成20年度から5ヶ年計画でスタートした推進計画のもと、着実に実績を積み上げ、町民の読書活動を活性化させるために貢献をしてきました。ただ、本を読む機会は多く設定されたものの、「本が好き」という意識を十分に育てきれなかったという反省点を残しました。

平成25年4月に策定された「富加町子どもの読書活動推進計画（第二次）」（以下「富加町第二次計画」）では、「真に読書が好き」という意識を育てることを目的に掲げ、計画を見直し、子どもが本と親しむ読書環境の充実と読書の楽しさを伝える工夫をしてきました。本との出会いをサポートする図書室経営、絵本ライブの実施、読書コンテストの開催など精力的に活動をすすめ、実践を積み重ねてきました。学校、町の図書室の貸出冊数は年々増加し、小中学生を対象とした読書アンケートの結果から、「本が好き」と答える子どもは少しずつ増加し、取組の成果が徐々に表れつつあります。

郷土が生んだ児童文学者「木村小舟」の意志を受け継ぎ、「めざそう！！1万冊 みんなで1万冊の本を読もう」を合い言葉に掲げてきましたが、年間の貸出冊数は2万冊に届こうかという勢いです。

徐々にではありますが、富加の読書活動は前進しています。子どもたちにとって、本がなくてはならない存在となるよう、これからも各種団体との連携を大切にしながら、活動が継続、そして発展していけるよう、ここに「富加町子どもの読書活動推進計画（第三次）」（以下「富加町第三次計画」）を策定します。

## 第1章 第二次計画における取組の成果と課題

### 1 富加町第二次計画の目標と計画の重点

富加町教育委員会は、平成25年3月に「富加町第二次計画」を策定しました。めざす姿を「本が大好きな富加の子」とし、基本方針『子どもたちが本を好きになり、本との関わりを深めることができる環境づくり』のもと、計画の重点を以下の三つに定めました。

- ・読書環境の整備と読書機会の充実
- ・読書の楽しさを伝える工夫
- ・富加にまつわる読書文化と誇りの伝承

### 2 富加町第二次計画における取組

上記の重点に従い、次に掲げる活動に取り組みました。

#### (1) 読書環境の整備と読書機会の充実

- ・レファレンスサービスの充実
- ・先進図書館の視察
- ・本との出会いをサポートする図書コーナーの設置
- ・子どもの読書活動を支える人材育成
- ・本のリサイクルバザーの実施
- ・読書アンケート実施（小中学生対象）

#### (2) 読書の楽しさを伝える工夫

- ・ブックスタートの実施
- ・季節のおはなし会の実施
- ・先生の薦める本の紹介
- ・読書コンクールの実施
- ・絵本ライブの開催
- ・子ども朗読の会の開催
- ・小学生による群読発表の実施
- ・子どもの図書司書体験

#### (3) 富加にまつわる読書文化と誇りの伝承

- ・木村小舟の作品読み聞かせ実施
- ・木村小舟賞表彰式の実施
- ・木村小舟についての道徳資料の作成と実施の推進

### 3 第二次計画における成果

#### (1) 読書環境の整備と読書機会の充実

(データは 28.3.24 現在)

##### ア 図書室利用者の増加

図書室利用者数が年々増加することに合わせ、レファレンス件数、特に利用者からのリクエスト件数が増加しています。図書室が町民にとって身近なものとなり、手軽に利用できる場所として位置付いてきていることが分かります。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
リクエスト 件数	250件	460件	494件	552件	661件

【町の図書室へのリクエスト件数】

##### イ 町の図書室の貸出冊数の増加

木村小舟が蔵書 1 万冊を提供して図書館を開設したことにちなみ「みんなで読もう！ 1 万冊」を合い言葉に読書推進を進めてきましたが、下表からも分かるように年々貸出冊数は増加し、27年度、ついに 2 万冊を超えることができました。

(冊)

月 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27	1797	1958	1794	2071	2336	1659	1452	1476	1302	1990	1542	1430	20807
26	1492	1627	1548	2054	2272	1612	1929	1468	1238	1437	1436	1608	19721
25	1413	1535	1642	1990	2132	1632	1723	1454	1300	1377	1339	1736	19273

【図書貸し出し冊数の推移】

##### ウ 町図書室の特設コーナーに立ち止まる人の増加

「おすすめの本はないですか？」という利用者の声に「こんな本どうですか。」と応えるべく、特設コーナーを設置してきました。コーナーの前で立ち止まる利用者が増え、そこから多くの本が貸し出されました。

部活動コーナー	「淡き思いよみがえるあの頃」と題し、中高生はもちろん、大人の方にも青春時代をよみがえらせる本を集めたコーナー。
岐阜県出身の作家コーナー	岐阜県出身の作家の多さにびっくりし、図書室の中から岐阜県出身の作家の作品を集めたコーナー。
涙活コーナー	「あなたの心にぐっときた本を教えてください」という募集を行い、利用者から寄せられた本を集めてつくった利用者との共同制作のコーナー。
絵本ライブコーナー	富加に絵本ライブ、講演会でみえた作家の作品コーナー
夏休み何をやる？コーナー	実験・工作・調べものに役立つ本を集めたコーナー

【図書室に特設したコーナー】

#### (2) 本の楽しさを伝える工夫

##### ア ブックスタート事業

乳児健診の際に、乳児と保護者に絵本を 2 冊贈り、子どもといっしょに本を楽しむ時間をつ

くってもらようよう、その大切さを伝えています。

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
参加人数	53人	34人	60人	42人
贈呈した本	「いないいないばあ」 「おやすみ」 「びよびよ」	「まてまてまて」 「くつついた」 「おつきさまこんばんは」 「したく」	「いないいないばあ」 「とっとけっこう よがあけた」 「くだもの」 「のりおのつみき」 「がたんごとん がたんごとん」 「ぎゅっ」	「いないいないばあ」 「ぎゅっ」 「とってください」 「びょーん」 「のりものつみき」

【ブックスタートで配布した本】

イ 絵本ライブの開催

絵本の楽しさを直接伝えたいという願いのもと、平成25年度から絵本作家による読み聞かせライブを開催してきました。並行して図書室では、作家コーナーを設置し、読み聞かせボランティアは小学校でその作家の作品を積極的に活用することで、作家を通して作品に親しむ機会をもつようにしました。その結果として7月、8月の貸出冊数が増加しています。

平成25年度 川端 誠    平成26年度 中川ひろたか    平成27年度 藤本ともひこ

ウ 「伝えたいわたしの1冊 わたしの1文コンクール」のスタート

町図書室利用者を対象に、本を読む楽しさを味わう手立てとして平成26年度に初めて実施し、平成27年度に第2回を開催することができました。小学校では、2年生以上の学年で取り組みました。中学校では、朝読書の時間を使って取り組みました。平成27年度は一般も含め、381件の応募があり、町民まつりに入賞作品の展示と表彰式を行うことができました。

エ 町民まつりにおける小学生の群読発表

小学生対象に参加者を募り、有志による群読に取り組み、町民まつりでステージ発表をしました。毎年20名以上の希望者がおり、「来年もやりたい」という声もあります。子どもたちに定着しつつある企画です。

(3) 富加にまつわる読書文化と誇りの伝承

ア 木村小舟を題材とした小学校道徳資料の作成

高学年向けに作成した読み物資料を道徳の授業で実施してもらえるように富加小学校に提案しました。授業の展開について、可茂教育事務所指導主事の指導を受け、高学年の道徳の資料として活用していきます。

イ 小舟さんの絵本読み聞かせ

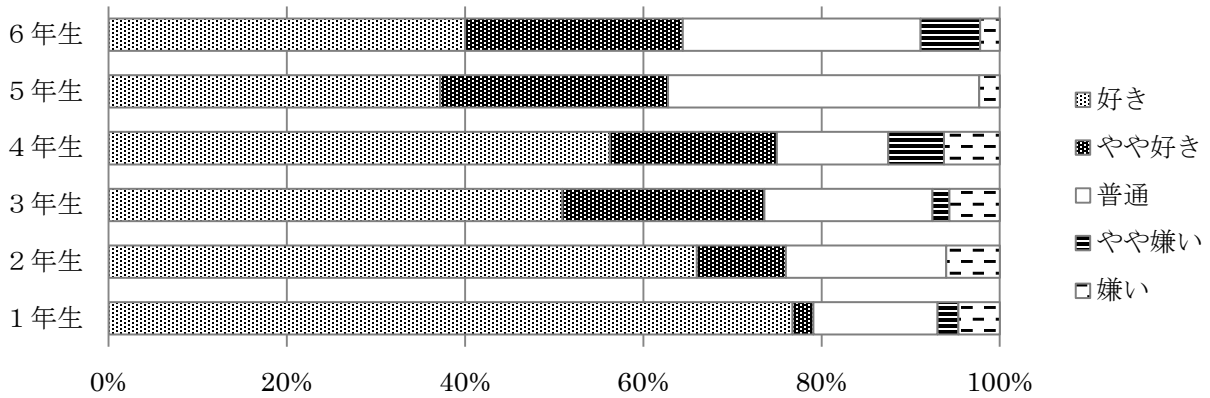
町民まつりに、「とみか朗読の会」による小舟さんの作品の読み聞かせを発表しました。

#### 4 第二次計画における課題

平成25年度から、富加町の小中学生の読書に対する意識を知るために次のような「読書アンケート」を3年間実施し、実態と課題の把握を行いました。(詳細は別添資料)

対象：富加小学校全児童，双葉中学校全生徒  
 質問：1 読書は好きですか  
 2 1週間に何冊本を読みますか  
 3 よく読む本のジャンルは何ですか  
 4 本が好きになったきっかけ，本が好きではない理由は何ですか

読書は好きですか(富加小)

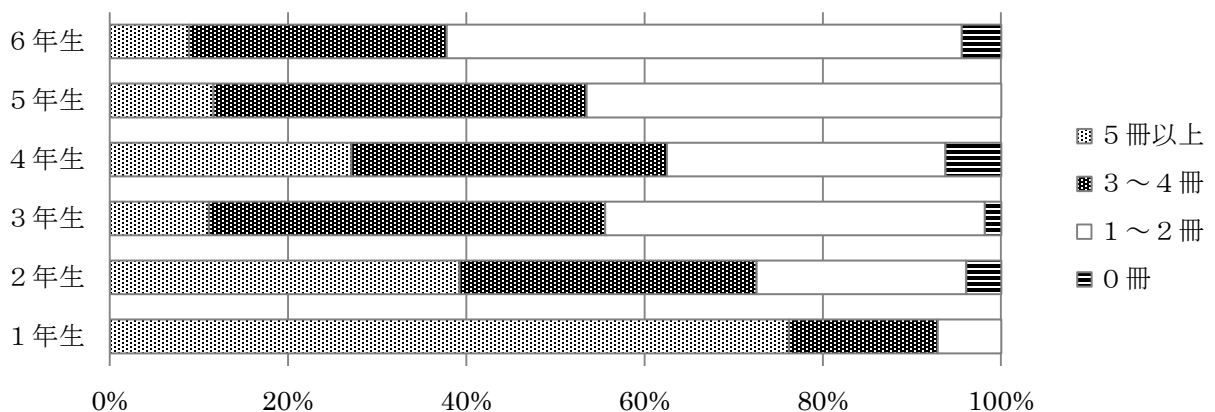


全校児童	H25	H26	H27
「好き」「やや好き」と答えた児童	75%	68%	79%
「やや嫌い」「嫌い」と答えた児童	4%	6%	5%

【「好き」「嫌い」児童の経年比較】

この3年間では、読書が「(やや)好き」な児童は増え、「(やや)嫌い」な児童は横ばいだということがいえます。

1週間の読書冊数



【富加小読書アンケート「1週間の読書冊数」】

5冊以上を5冊，3～4冊を3冊，1～2冊を1冊として全校児童による1週間の平均読書冊数を計算してみると「H25：1301冊 → H26：1432冊 → H27：1587冊」となります。全体で見ると、毎年100冊以上増加していることが言えます。ちなみに調査対象人数は

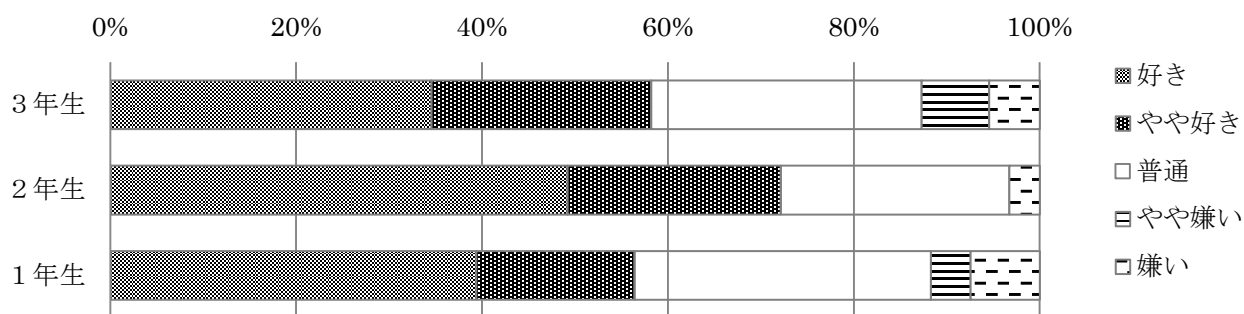
H26：292人      H26：314人      H27：282人

となっており、児童数の影響で読書冊数が増えたわけではないことが分かります。

この3年間で、読書が「(やや)好き」な児童が増加し、読書冊数も増加していることがこのアンケートからはっきりしました。これは学校での図書室利用活動、町図書室の取組などがその大きな要因であるといえるでしょう。

しかし、少数ではありますが、読書が「(やや)嫌い」だと答える児童はどの学年にもいます。下のグラフは中学生のアンケート結果です。「(やや)嫌い」な人数は中学生になり、増えることはあっても、減ることがないことが分かります。

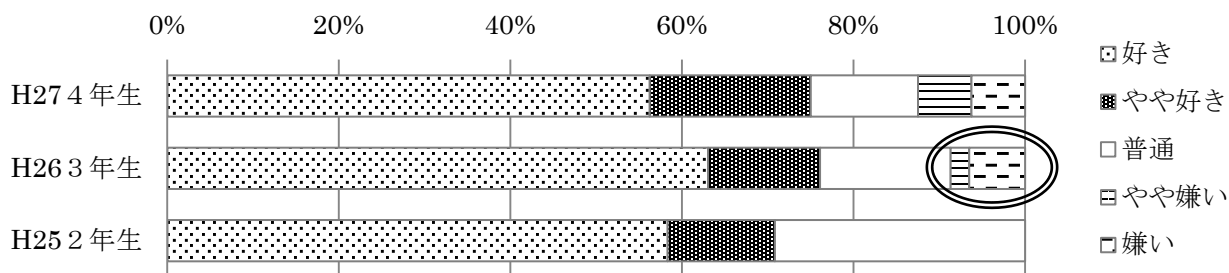
### 読書は好きですか(双葉中)



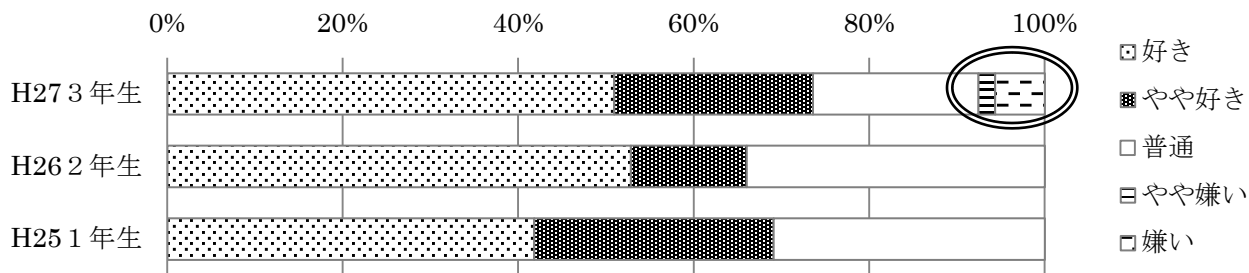
【双葉中読書アンケート「読書は好きですか」】

「読書は好きですか」という質問に対する答えをもう少し詳しく見てみます。下のグラフはこの質問に対する回答の現在の3、4年生の3年間の経年比較です。

### 4年生



### 3年生



【富加小読書アンケート「読書は好きですか」経年比較】

どちらの学年にも共通しているのは1、2年生にはいなかった「(やや)嫌い」な児童が、3年生になると出てきます。3年生に上がると読書が嫌いになってしまう子が出てきてしまうのです。なぜ嫌い



になってしまうのか。その原因の一端が質問4から見えてきます。

<質問4>

本が好きになったきっかけ	本が好きではない理由
<p><b>読み聞かせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい頃にお母さん・お父さん・おばあさん・お姉さん・先生)よく読み聞かせをしてもらったから</li> <li>・お母さん(お姉ちゃん)がよく本を読んでいたから</li> <li>・お父さんに読書の大切さを教えてもらったから</li> </ul> <p><b>身近な所に本がある環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家に本がたくさんあったから</li> <li>・本をよく買ってくれたから</li> </ul> <p><b>本との出会い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちが面白い本をすすめてくれた</li> <li>・図書室でよく借りていたから</li> <li>・面白い本に出会ってから</li> </ul> <p><b>本の良さへの気づき</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなことをもっと知りたくなって</li> <li>・知識が増える(世の中のことが分かる 知らないことを知ることができる)</li> <li>・別の世界にいる感じがする</li> <li>・読み終わった達成感</li> </ul>	<p>(小学生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読むことが面倒</li> <li>・読むことが嫌い</li> <li>・読んでも楽しくない</li> <li>・字が多くて読みにくい</li> <li>・漢字ばかりで読めない 漢字が分からない</li> <li>・読むのが遅いし、字を間違えてしまう</li> <li>・本を読むと勉強の時間が減る</li> <li>・読みたい本がない</li> </ul> <p>(中学生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文が長いし、文字が小さい</li> <li>・文の意味が分からない</li> <li>・時間がかかる</li> <li>・飽きる</li> <li>・読み続けるのが辛い</li> <li>・文字ばかりでどうい話なのか想像しにくい</li> <li>・目も肩も首も疲れる</li> </ul>

【読書が「好き」「嫌い」な理由】

**乳幼児期からの読書体験，環境がその後を左右する**

本が好きになったきっかけを見ると、乳幼児期の「読み聞かせ」や「本が身近にある環境」がその後の読書活動に大きな影響がありそうだということが分かります。また、周りの大人や仲間との関わり、図書室等における本との出会いも影響があります。乳幼児期にどのような読書環境を提供していくかを家庭、関係機関で考えていくことが大切だということが分かります。富加町第二次計画までに十分ではなかった乳幼児期の子どもをおもちの保護者への読書活動の啓発は、本計画において重視すべき点であります。

**本への抵抗感＝文字，漢字への抵抗感？**

「本が好きでない」理由を読むと、本を読むことへの抵抗感と文字，漢字への抵抗感にはつながりがあるように感じられます。また、「本が好きな子」が感じている本の面白さを味わうことができていないこともあるようです。いわゆる「食わず嫌い」状態にあるように思われます。中学生の回答も同じです。好きではない理由に、「面倒」「嫌い」「疲れる」という言葉が並びます。小学生で嫌いになってしまった児童がそのまま中学生にあがっていきます。3年生くらいで、対象となる本が絵本から文字の多い本に移る頃に、「本を読み切る」「内容の楽しさを味わう」「新しいことを知る」といった読書のよさを十分に味わう経験をさせておくことが必要だと考えられます。本に親しむ「きっかけ」づくりをどう提供するかが富加町第三次計画の課題といえそうです。

### **発達段階に応じた本との関わらせ方**

以上より、本との出会いをどう仕組むか、本の楽しさをどう伝えるか、本からどう学ばせるかといったことを年代ごとに、家庭、学校、図書室等それぞれが考え、連携しながら取り組んでいくことが生涯にわたって読書に関わり、楽しむことのできる子どもを育てることにつながると考えられます。まずは、子どもを囲む大人が本を読む姿を子どもに見せ、いっしょに読書の楽しさを味わうことをめざしていきたいと考えます。

## 第2章 富加町第三次計画の基本方針

### 1 目標と基本方針

幼少期の読書経験が、その後の読書活動に大きな影響を及ぼすということが独自アンケートからも分かりました。さらに、子どもたちは成長に応じて、「本を楽しむ」だけではなく、「本から学ぶ」「本を生かす」というように本との関わりの幅を広げていきます。その段階に応じてどのような働きかけが必要なのかを考え、実施に移していかなければいけません。そこで、どこ（だれ）が、どの時期に、どのような働きかけをしていくのかをまとめ、意図的な働きかけをしていけるように「読書サポーターズの会」を中心にして啓発を行うようにします。

富加町第二次計画までの取組の成果と課題を踏まえ、富加町第三次計画の策定にあたり、次のように目標を定めます。

「読書の楽しさを味わい、  
本を生かし、本から学ぶ力を身に付けた子どもを目指し  
生涯にわたって人生を豊かにする読書活動の推進」

キーワード 「出会う」 「味わう」 「学ぶ」

さらに、この目標を具現するために以下の基本方針を定めます。

#### 目標1 「本に出会い 読書の楽しさを味わう」

- ・新しい世界を想像して広げる喜びを感じたり、登場人物に共感を覚えたり、励まされたりする読書の楽しさを味わうことができる。

#### <基本方針1> 本との出会いをサポート

- ・子どもと本との出会いのための家庭の役割を伝えるとともに、本との出会いを提供する機会を積極的に設けることで、子どもが読書の楽しさを感じ、味わうことができる読書活動の推進に努めます。

#### <基本方針2> 読書の楽しさを味わう機会の提供

- ・じっくりと読む・聞く機会を意図的に提供することでその楽しさを味わえるようにする。また、家庭、地域、図書室、学校が連携し、読書を楽しむ機会を生み出すように努めます。

#### 目標2 「本を生かし、本から学ぶ力を身に付ける」

- ・読書によって新しい知識を得たり、いろいろな考え方に触れたり、考えを深めたりすることができるようにする。

#### <基本方針3> 本から学ぶ力の育成

- ・家庭・図書室・学校がそれぞれの役割を自覚し、子どもの学びの支援をするための読書活動の推進に努めます。

### 2 計画の位置付け

国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づく「岐阜県子どもの読書活動推進計画（第三次）」を基本とし、富加町の子どもの読書活動推進に関する施策についての計画とします。

### 3 計画の対象

本計画は「富加町教育新生プラン」に基づく子ども（0～15歳）を対象としたものですが、子どもの読書活動は子どもを取り巻く環境に大きく影響されるため、ねらいの達成のためには大人、とりわけ子どもの保護者に働きかけるものとします。

### 4 計画の期間

本計画は平成28年度から平成32年度までの5年間とします。ただし、平成30年には見直しを行い、修正を加えるものとします。

## 第3章 具体的な取組 活動の提案

発達段階に応じて必要な、子どもへの働きかけ、家庭や学校等関係機関、団体に期待する取組を提案します。また、推進計画の成果の把握のために、保護者及び小中学生にアンケートを毎年とることで、課題をさぐり、施策の展開に役立てていきます。

### 【家庭】

子どもたちの生活の基本である家庭での読書環境は、子どもたちの読書活動に大きな影響を与えます。機会をとらえ、家庭の読書活動に関わる役割とその大切さを伝えるとともに、取組の提案を投げかけていきます。

#### ①子育て講座を通じて読書活動の意義や重要性を啓発

##### 《妊婦期》

出産を控えた夫婦を対象に、親になる心構えをつくることをねらいとした講座「パパママ教室」があります。そこで、助産師から妊娠中、胎児に親の声を聞かせることの大切さを話していただくことにつなげ、出産後の読み聞かせの大切さを話すとともに、出産を控えた夫婦、子育てを始めた夫婦が読み、心の支えとなる本を紹介していきます。

##### 《乳幼児期》～ブックスタート事業～

乳児健診の際に乳児と保護者に絵本2冊を贈るとともに、本を楽しみながら過ごす時間の大切さとその方法を伝えます。

#### 絵本を読むときに心がけていただきたいこと

- ①「赤ちゃんが好きな本は、繰り返し読んであげましょう。ただし、無理をせず、機嫌のよいときに、ゆったりとした気分で読んであげましょう。」
- ②「絵本を読む喜びを分かち合いましょう。赤ちゃんといっしょに幸せな時間を過ごしましょう。赤ちゃんは身近な大人の優しい笑顔と温かい呼びかけに、身体中で喜びを表します。」
- ③「絵本もおもちゃのひとつです。遊びと同じように読み聞かせを始めましょう。」
- ④「早期教育ではありません。赤ちゃんの心を育てるためのものです。保護者、そして赤ちゃんに負担をかけるものではありません。」

##### 《保小中期》

家庭教育学級や懇談会等において「身近に本がある環境」「親が読書をする姿」「保護者による読み聞かせ」の重要性について啓発をします。

## ②家庭での読書活動の啓発

P T Aによる「家読(うちどく)」「ノーメディアデー」等の取組を行い、家族そろっての読書活動を推進します。

## 【子育て支援センター】

### ①読書活動の啓発

家庭での絵本の読み聞かせの大切さを機会あるごとに伝え、支援センターでの絵本の貸し出しを増やします。

### ②読み聞かせの実施

毎週金曜日に実施している絵本の読み聞かせを継続するとともに、町内の読み聞かせボランティア団体に読み聞かせを依頼したり、保護者に読み聞かせボランティアを募ったりして読み聞かせの充実を図ります。

### ③読書環境の充実

子育て支援センター内の絵本コーナーの充実を図り、遊びに来た子どもや保護者が本をとりやすく、選びやすい環境に整えます。また、町の図書室からの団体貸し出しによって、絵本の充実を図ります。

### ④絵本についての情報発信・交流

年齢に応じた絵本、人気のある本、ぜひ読んでもらいたい本など、絵本に関する情報を発信します。また、センターを利用される保護者におすすめの本(子ども向け、子育てなど)を募り、それを紹介し合います。

## 【とみか保育所】

### ①読み聞かせの実施・充実

保育士はもちろん、町内の読み聞かせボランティア団体による読み聞かせやおはなし会を実施し、絵本に親しむ機会を増やします。また、保護者に読み聞かせボランティアを募り、読み聞かせの輪を保護者に広げます。

### ②読書環境の充実

保育園にある絵本コーナーの充実や町の図書室からの団体貸し出しによって、絵本の充実を図ります。

### ③絵本についての情報発信

年齢に応じた絵本、教室で読んで人気の絵本、ぜひ家庭でも読んでもらいたい絵本など、読書、絵本に関する情報を発信します。また、家庭教育学級等において、家庭の読書環境や読み聞かせの重要性を伝えながら、「読み聞かせ週間」などの取組で啓発を行います。

## 【小・中学校】

### ①読み聞かせの充実

読み聞かせボランティア団体やP T A、教師による読み聞かせを行い、子どもたちがより多くの本と出会い、本の面白さに出会える機会をつくります。



## ②読書活動

年齢が上がるにつれ、読書活動が低下する現状改善のために、各学年に応じた読書活動を進めていきます。全校一斉の朝読書で読書の習慣付けを行うとともに、委員会活動による読書コンテスト、本の紹介活動などを行い、子どもたちの読書意欲を高めます。

小学校中高学年から中学生によるビブリオバトルを実施します。

ビブリオバトル：自分のお気に入りの本を書評という形で聞き手に紹介するコミュニケーションを用いたゲーム。

## ③読書関係の行事・講座への参加

町民まつりの群読発表会への参加や読書サポーターズの会による「伝えたいわたしの1文コンテスト」、「読み聞かせ講座」「図書司書体験」等への参加を積極的に薦めるとともに、学級学年単位での参加を試みることで、本への興味と読書への意欲を高めます。

## ④読書環境の充実

学校図書館は、図書委員会を中心に新刊コーナーや教科書に出てくる作家コーナーなど手を伸ばしたくなるコーナーを設置し、読書活動を促します。

並行読書ができるように本を設置するなど、教室に置く本の充実を図ります。

## ⑤保中の連携

中学生による保育園での読み聞かせ活動など、他との連携による読書活動を推進します。

## ⑥先生からのお勧め本紹介

夏休みを利用して先生が薦める本のポスターを作成し、学校図書館に展示し、子どもの読書活動意欲を高めます。また、中学生の職場体験活動の図書司書体験者による、先生方への読書アンケートの実施、読書新聞の作成を行います。

## ⑦PTA活動による親子読書の取組

小中のPTAが連携し、中学校のテスト週間に合わせた「ノーメディア ノーゲームデー」を実施し、小学校では親子読書を行います。

おすすめの本をクラスごとに家庭へ回し、親子読書の機会とします。

## ⑧図書館利用・活用方法の学習

図書司書による図書室の利用方法(貸し出しの方法、約束、本の探し方)や図鑑を使った調べ方を学ぶことで、図書室利用を促進します。

## ⑨辞書の活用の推進

3年生以上は近くに国語辞典を置き、意味を知りたいときにすぐ調べられるようにします。それによって、言葉への興味をもたせ、語彙を増やすことにつなげます。

## ⑩郷土の児童文学者 木村小舟を知る

小学3年生の「総合的な学習の時間」で木村小舟を取り上げ、その功績や残した文学作品に親しむことを通して、児童文学に興味をもたせます。

高学年の道徳の時間(道徳科)において、自作資料「木村小舟」を实践し、小舟の生き方を学ぶことで、郷土への誇りと愛着を育みます。

## 【町の図書室・読書サポーターズの会・行政の取組】

### ①乳幼児支援・働きかけ

- ・子育て支援センターととみか保育園へ図書室の本を貸し出し、定期的な入れ替えを行います。
- ・子育て支援センターととみか保育園での読み聞かせの充実のために、町内の読み聞かせボランティア団体に協力を呼びかけます。
- ・読み聞かせの機会を定期的に提供します。

#### ②小学校支援・働きかけ

- ・入学時のブックスタートとして「入学したら読んでみたい本リスト」を配布します。
- ・図書館利用指導（本の探し方、図鑑の使い方）をします。
- ・夏休みの「図書司書体験講座」「朗読講座」を企画、実施します。
- ・町民まつりでの群読発表者を募集し、練習を進めます。
- ・小学校の先生を対象に「ビブリオバトル」研修を実施します。

#### ③中学校支援・働きかけ

- ・職場体験を町図書室で受け入れ、図書館や本への興味をもつ機会、環境をつくります。（本棚の整頓、読書壁新聞の作成等の体験）
- ・ビブリオバトルの実施を支援します。
- ・絵本ライブにスタッフボランティアとしての参加を募集し、作家との出会いの場をつくります。

#### ④青年期以上への働きかけ

- ・成人式を迎える人に薦める本を広く公募し、特設コーナーを設置して紹介します。
- ・インターンシップを受け入れます
- ・「わたしの本棚コーナー」への参加を呼びかけ、利用者とともにつくるコーナーを設置します。

#### ⑤町民全体への働きかけ

- ・絵本ライブを開催し、親子で絵本の楽しさを味わう機会を提供します。
- ・読書コンクールを実施し、町民全体で読書に親しむ場を設けます。
- ・本のリサイクルバザーを実施します。
- ・「読み聞かせ講座」を実施し、家庭での読み聞かせを啓発するとともに、園や学校などでの読み聞かせの充実につなげます。
- ・富加町の児童文学者である木村小舟の功績や作品を町民に伝え、郷土への誇りと愛着を育みます。

## 『読書サポーターズの会』の位置付け

### 1 構成メンバー（平成27年度現在）

- ・木村小舟を語る会代表(2名) ・とみか朗読の会代表(2名) ・ぶっくぷっく代表(2名)
  - ・図書司書(1名)
  - ・(拡大) 保育園 小学校 中学校の図書担当(各1名)
  - ・教育委員会事務局(2名)
- (拡大会議では、子育て支援センター指導員も参加していただけるとよい)

### 2 役割

「富加町第三次計画」のもと、富加町の読書活動を推進するために中心となって活動を行う。その主な活動内容は以下の通りである。

- ・読書アンケートの実施とその分析
- ・読書活動に関わる行事の運営（絵本ライブ 読書コンクール 町民まつりの展示・発表 等）
- ・読書活動推進に関わる支援・助言

### 3 活動計画

月	主な活動とその内容	
4月		
5月	第1回読書サポーターズの会（拡大） 読書アンケート実施	保小中の図書担当者も参加 ・年間の見通し
6月		・各機関の活動計画の交流
	第2回読書サポーターズの会	絵本ライブの準備
7月		・ちらし配布
	絵本ライブ実施	・仕事分担
8月		
9月		
10月	第3回読書サポーターズの会	町民まつりの準備 ・ステージ発表
11月		・読書コンクール ・読書展示
12月		
1月	(図書館視察)	
2月		
	第4回読書サポーターズの会（拡大）	活動報告
3月		来年度に向けて

### 4 読書に関するアンケート

#### 保護者向けアンケート例

- ①あなたは読書が好きですか  
とても好き　まあまあ好き　あまり好きではない　好きではない
- ②お子さんに読み聞かせをすることはありますか  
ほぼ毎日　週3～4回　週1～2回　月1回程度　ない
- ③子どもたちがもっと本を読むようになるにはどうしたらいいと思いますか

#### 児童生徒向けアンケート例

- ①あなたは読書が好きですか  
とても好き　まあまあ好き　あまり好きではない　好きではない
- ②あなたは1ヶ月にどれくらい本を読みますか  
10さつ以上　6～9さつ　3～5さつ　1～2さつ　ぜんぜん読まない
- ③あなたはどのようにして本を用意しますか  
家にある本を読む　学校の図書館から借りて読む　町の図書室から借りて読む  
家族に買ってもらうか自分で買って読む　友だちから借りる　読まない　その他
- ④どうしたら今よりたくさん本が読めるようになると思いますか



資料 発達に応じた読書活動推進に向けた働きかけ（案）

		目標1 読書の楽しさを味わう				目標2 本を生かし、本から学ぶ		
		本との出会いをサポートする		読書の楽しさを味わう機会の提供		本から学ぶ力の育成		
成人期	成人式を迎えたあなたに薦める本 (広く呼びかけることで伝える側になる)	インターンシップ	私の本棚コーナーへの参加  特設コーナーの設置 ・成人向け ・ヤングアダルト向け	本のリサイクルバザーの実施	読み聞かせボランティアへの参加	絵本ライブワークショップ  群読の発表  ・中学生ボランティアの募集(作家との交流の場)	ビブリオバトル  辞書の活用の推進  図書室の活用の仕方, 図鑑を使った調べ方を学ぶ。  木村小舟から学ぶ ・総合的な学習の時間 ・道徳の時間  夏の宿題コーナー(工作・研究・読書感想文など)	
中学校	中学校入学時のサードブック事業	職場体験の受け入れ  図書司書体験	先生が薦める本の紹介	PTA, 家庭教育学級の取組として, 親子読書や読書リレーを行う ・双葉中校区としてノーマディアデーの実施	絵本ライブボランティアへの参加を通して作家と出会う。			「伝えたいわたしの1冊 わたしの1文コンクール」
小学校	小学校入学時のセカンドブック事業	保育園への読み聞かせ活動			読み聞かせ(ボランティアを拡充し, 全学級での読み聞かせを実施。)			
幼児期		子育て支援センター・保育園への図書室の本の貸し出し。(定期的な入れ替え)	絵本の紹介  読み聞かせボランティアの募集	乳幼保小中の各家庭教育学級で読書の大切さと家庭の役割について啓発する。 ・身近に本がある環境 ・親が読書をする姿 ・家族による読み聞かせ	季節のおはなし会	親子読書		
乳児期	ブックスタート事業							
妊娠期				パパママ教室での親子読書の啓発				

# 本が大好きな富加の子

富加町子どもの読書活動推進計画(第三次)

【平成28年4月策定 5カ年計画】

**目標** 読書の楽しさを味わい、本を生かし、本から学ぶ力を身に付けた子どもを目指し、生涯にわたって人生を豊かにする読書活動の推進

## 成人期

◇本を読み、伝え、人生を豊かにする楽しさを味わう  
【わたしの本棚】

## 親子読書

## 小学校期

◇本を読むことの楽しさ、大切さを味わう  
【読み聞かせ  
群読発表】

## 中学校期

◇本を読み、学ぶこと、伝えることの楽しさを味わう  
【ビブリオバトル】

## 読み聞かせ

## 乳児期

◇身の回りに本がある環境、本を楽しむ時間の大切さを伝える  
【ブックスタート】

## 幼児期

◇絵本を聞くことの楽しさを伝える  
【おはなし会月1回実施】

## 読書コンテスト

## 妊娠期

◇保護者に絵本を読み聞かせすることの大切さを伝える  
【パパママ教室】

## 絵本ライブ

**本から学ぶ** ~本から学び、生かす~

**本を味わう** ~本に親しむ~

**本と出会う** ~本を知る~







## 富加町 子どもの読書活動推進計画（第三次）

「読書の楽しさを味わい、さらに本を生かし、  
本から学ぶ力を身に付けた子どもを目指し  
生涯にわたって人生を豊かにする読書活動の推進」

**出会う 味わう 学ぶ**

平成28年(2016)4月

富加町教育委員会  
〒501-3392 岐阜県加茂郡富加町滝田 1511  
Tel 0574-54-2177  
kyoiku-g@town.tomika.lg.jp